

平成28年度 第2回 米子市地方創生有識者会議

日時：平成28年10月21日（金）午後3時30分～

場所：米子市役所旧庁舎 603会議室

1. 開会
2. 座長あいさつ
3. 議事

（1）米子がいな創生総合戦略の改訂について

※事務局より資料1～3について説明

（古賀座長）

最初に2つほど質問させていただきます。1点目、今後改訂を行い公表する段階にもっていかれると思いますが、そのスケジュールについて教えていただきたい。

それから2点目、各改訂にあたって目標達成年度が前倒しになっている非常に積極的な改訂案がありますが、例えば「平成29年度までに」といった表現については、平成29年度の時点で総括し、改めて目標設定をするという考えでよいのか伺いたいと思います。

（永瀬地方創生推進課長）

改訂スケジュールについては、10月28日に米子市議会で報告し、その後内部決裁をとってから改訂をするという段取りで進めていく予定でございます。

地方創生総合戦略は平成31年度までの取組ですが、今回改訂させていただく部分以外にも平成31年度以前で目標年度を区切っているものが多数あるため、それについては、毎年度有識者会議でも実績の報告させていただき、状況を把握したうえでその後どうするか検討していくこととなります。いろいろなケースがあろうかと思いますが、いずれにしても毎年検討していきたいと考えております。

（古賀座長）

P17の24「鳥取県西部圏域移住定住推進加速化連携事業」について、移住体験モニターを首都圏から呼ぶとのことですが、どのような形で対象者を募集し、どのような形で受け入れるのか教えていただきたい。

（永瀬地方創生推進課長）

移住体験モニターは情報発信をするという目的であるため、移住を検討している方に来ていただく性質のものではございません。

例えば小さな子どもがいるような若い世代の都会の方をターゲットにして、東京のほうで移住定住関連雑誌などの通信手段を使い、体験モニターの募集をかけ、9市町村に1組ずつ配置する予定としております。

また、今回は都市圏と鳥取県西部圏域の違いは何なのか意識してもらえるような仕掛けをつくる方向で委託業者と検討しており、9市町村それぞれの特徴を活かしながら生活体験をしていただき、それを動画にして情報発信していくような計画を立てております。まだまだ詰めていくことはありますが、何とか成功させたいと思っております。

（古賀座長）

内閣府の地方創生に関するプロモーションビデオが集積されたページのうち、中国地方のページを見たことがあります。その大多数を鳥取県が占めており、いかに鳥取県が良いところか、移住された方がいろいろな立場から情報を発信していました。

米子のよさをアピールすることはとても大切ですので、移住定住ポータルサイトを多くの人に見ていただけるような形で整備していただきたいと思っております。

（前田委員）

米子の暮らしやすさをPRして移住定住を進めるということで、生活コストの見える化システムを見ると、30～40代の子育て世帯による評価がナンバーワンで、子育てしやすさ日本一ともいえるのではないかと思います。

米子市は保育料が高いという話もあるそうですが、実は子育てしやすさ日本一であるといったアピールを出していけば、保育料無償化の範囲拡大を際立たせることができ、また移住定住のアピールポイントを明確化するうえでも有効ではないかと思ったため、意見させていただきました。

（古賀座長）

鳥取大学においても子育て環境が整っている職場ということで、内外いろいろなところから引き合いがあり、先日も東京の大企業が勉強という形で視察に訪れていました。こういった取組ひとつひとつは小さいものかもしれませんが、非常に効果が高いものだと感じているので、ぜひPRしていただきたいと思っております。

（永瀬地方創生推進課長）

ご紹介いただいた子育て環境についてですが、移住者の方に何うと「上には上がいる」と。移住者の方というのはそれぞれ多様な不安や悩みを持たれていて、保育所を探す際はどうしたらいいのか、そういったスタート部分から悩んでいる方もおられますので、移住定住相談窓口での案内など、移住者の不安や悩みによりきめ細やかに対応していくといったひとつひとつの取組のほうが大事ではないかと思っております。もちろん子育て環境もPRしながら、移住定住の促進に取り組んでいきたいと考えております。

（但馬副座長）

いま事業を進めるにあたってリーダーになる人材が不足していることから、国が地方創生カレッジというものを立ち上げて人材育成を行う計画があると聞いていますが、米子市においてその計画に対する取組姿勢のようなものがあれば、わかる範囲で教えていただきたい。

（永瀬地方創生推進課長）

もちろん国から創生カレッジ等、人材育成関係について情報提供していただいております。

ますが、いまのところ地方創生カレッジを具体的に活用する予定はございません。

中海・宍道湖・大山圏域市長会が経済界と人材育成の共同化を行うとご報告したとおり、そういったことで地方創生人材の育成に取り組んでいきたいと思っておりますが、ほかにもどういった人材育成のやり方があるのか模索していきたいと思っております。

（古賀座長）

どのように積極的な発言や行動ができるリーダーが作れるか、鳥取大学においても日夜模索しているところですが、ぜひそちらについても続けていただきたいと思っております。

以上の議論を踏まえて改訂版の作成をされるよう、よろしくお願いたします。

（2）有識者所属団体における地方創生の取組事例について

① 米子工業高等専門学校 森田委員

きょうは2点に絞って取組事例を紹介いたします。まず1つ目、5年ほど前からはじめているオープンファクトリー（プレインターンシップ）と呼んでいる取組ですが、これは本校のキャリア進出が主体となっており、120社ほどが関連している米子高専の協力企業団体である振興協会の協力を得て、9月中に3年生以下の学生を対象に地元企業の見学会を実施するものであります。全国の企業で職場就業体験をする第4学年になる以前の低学年の学生に、地元企業の名前を知っていただいて、そのうえで地元への定着、地元の企業や産業がどのような状況か知ってもらうといった意図からはじめたものです。

今年度は9月12～16日で開催いたしました。地元の33企業にご協力いただき、延べ181人の3年生以下の学生が参加いたしました。地元の企業を知ることと、地元の内容がよくわかるということで、95%以上の満足度があったと思っております。

これははじめてから鳥取県や島根県内の企業に就職する学生の割合が上がってきております。そもそも山陰地方に優良企業があることを知らない学生が多かったため、取組によって知名度が上がり、選択肢のなかに入ってきたことが地元定着の割合増加につながっていると思っております。

取組の結果が出つつあるので、それを仮に米子市に還元するとすれば、地元の大学などを含めて、こういった取組に関する支援などを考えていただければ、より学生が地元で就職する底上げになるのではないかと考えております。

2つ目は教育研究の成果による地方創生の取組事例として紹介させていただきます。教育・研究によって育てた学生の能力を試す場としてコンテストなどに参加しており、これは全国の高専などと比べてもかなり積極的だと思っております。

全国規模の技術コンテスト、学会、国際学会などで名前があがったことで、全国の企業から産学連携の申し込みがあり、ここ1年程度でも5件ほどございます。

例えば国際シンポジウムで医療用マイクロミキサのシミュレーション研究発表を行い、賞をいただいておりますが、その結果、大阪の企業と産学連携の話が出てきました。それから環境大臣賞の最高賞を2年連続で受賞しておりまして、こちらは東京の企業が

らお話があるそうです。また、エンジンや冷凍機を作るコンテストにおいて4年連続日本一となり、静岡県の企業から産学連携の声がかかりました。

そのほかNHKの番組に本校の建築学科の学生が出演しました。もともとは高専でやっているデザインコンペティションにおいて8年ほど連続で大臣賞をいただいております、そういったことから出演の声がかかったそうです。

こういった取組から、なかにはゆくゆくは工場進出を考えたいという話もあって、米子市に進出してくる企業のきっかけになればと思っております。せっかくこのような取組がありますので、もしよろしければ米子市にとってもメリットになるような情報発信の仕方ができればと思いますし、もし本当に企業が進出するという話になったときには、やはり予定地がなかなかないという話も報道で聞いておりますので、その辺の備えにも引き続き取り組んでいただければと思います。以上2点ご紹介いたしました。

（古賀座長）

ありがとうございました。米子高専さんの取組として2点ご紹介いただきました。オープンファクトリーはとてもいい取組で、私たちもぜひジョイントしたいと思っております。

鳥取大学の学生もそうですが、県内に魅力のある企業がなく、卒業して都心に行くが、夢破れて帰ってくるケースも多数あると聞いております。鳥取県内にも自分の能力を活かして活躍できる場があると知るとはとても大事だと思いますし、相乗効果として企業の力をさらに向上させ、外から人を呼び込むことにつながると思います。

このような取組において、企業のニーズとマッチしないことも出てくると思いますが、その場合には高専以外の教育機関にも来てもらうなどしておられますでしょうか。

（森田委員）

オープンファクトリーは、高専の協力企業である振興協力会の提案からはじめたものですが、そもそも協力会は高専の卒業生をとりたいという思いから企業が立ち上げたもので、遅ればせながらその知名度を上げるための取組をしようと5年前にはじまった事業でございます。また全国でも初期にこの協力会を立ち上げたことから見ても、米子というのは全国的にも産業振興に積極的な土地柄だと思われれます。

この事業に参加したことにより実際に県内企業に就職した事例もありますから、そういった意味では学生のニーズと企業のニーズも合っているのではないかと思います。また全国規模の企業に来ていただき、鳥取大学や島根大学と共同で行う説明会の場を設けるといったことも実施しております。

4年生はインターンシップに行くわけですが、地元の企業のインターンシップは内容が全国レベルの企業に比べて控えめで、なかなかインターンシップに行くことができないという実態もございます。インターンシップ先の企業は40%以上の確率で学生の進路の選択肢に入ってきますので、企業も学生採用という面ではかなり強力になります。そういった部分をもっと詰めていけば、お互いのマッチングがより上がっていくのではないかと思います。

（古賀座長）

教育研究成果による地方創生の話にもつながるかと思いますが、私たちもお付き合いがある米子市内のロボット会社から米子高専のロボコンチームの人を雇いたいという話を聞いたこともあって、米子にありながら全国地区になりつつあるという感覚を覚えています。

また合同職種説明会などでは、全国の企業が米子に目をかけるという機会になりますので、そういったものをうまく活用することで、外からの企業誘致につながるような取組になる可能性もあるのではないかと思います。

市のほうからこの取組に関してご発言等ございますか。

（大塚経済部長）

最近の企業の動向ですが、非常に優秀な人材を求めておられる企業もございます。一時企業側は労働単価の安価なところを求めて海外進出などしておりましたが、最近はまだ日本への回帰がはじまってしまっていて、質の高い技術者や労働力を求めている状況が多くございます。

森田委員からご紹介いただいた取組を高専、市、労働環境などのPRに使わせていただくことで、全国へ発信ができるのではないかと思います。また企業誘致にもつながると思いますので、ぜひ情報をいただき、情報発信活動に使わせていただきたい次第でございます。

それからご指摘のありました企業用地の確保についても鋭意検討しておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

②米子商工会議所 但馬副座長

鳥取県西部9市町村の創業支援事業の一環として、昨年からは創業チャレンジセミナーを開催しております。昨年は高校生向けのを開催していましたが、今年は小学生・中学生向けのを開催し、また11月には昨年に引き続き高校生向けのチャレンジセミナーを開催することとしております。

内容としては、模擬の会社設立をしていただきます。それぞれグループに分かれていただいて、そのなかで社長や部長などの役割分担を行い、鳥取県にゆかりのある商品をつくっていただくと。それを作るにあたり材料の値段が決まっておりますので、模擬の通貨で材料などを購入する事業計画を立てていくなどの作業をしてもらいます。事業計画に基づいて資金が必要になってきますので、いま政策金融公庫の前田支店長がいらっしゃいますが、融資係として前田支店長にも連日ご出席をいただき、事業計画の審査をしていただきました。商品を作って販売をし、最終的には決算を行って、会社が赤字であったのかどうかといった一連の流れを経験していただくというのが、このチャレンジセミナーとなっております。

今年参加していた中学生の男の子に参加理由を聞いたところ、ゆくゆくは起業したいので参加したということでした。そういった子どもが実際5～10年後にこの米子で事

業を起こしてくれれば本当に嬉しく思いますし、子どもの時分から事業を知っていたいて、事業に対して前向きな気持ちになれるようセミナーに取り組んでいるところです。

またこれとは別に創業塾というものを例年開催しており、今年も夏に平日夜の開催として実施いたしました。11月の土日にも2回目を実施予定としており、時間帯を変えることで参加者の利便性向上なども図らせていただいているところです。昨年は40人弱が創業塾に参加し、最終的に9人が起業されたと聞いております。

それから事業承継については、今年は鳥取の事業引き継ぎセンターから相談員の方に来ていただき、月に1回個別の相談会を開催しております。

また昨年度、企業の支援ネットワークの案件における事業引き継ぎの協定を漬物屋2社と行うことができ、漬物技術の継承、また両者の雇用が守られたということで、商工会議所としてはそのような取組も実施しているところでございます。

（前田委員）

協力した立場からあえて言葉を付け足させていただきます。小中高校生向けの創業ビジネスゲームの実施というのは、おそらく日本最大級の創業支援ではないかと考えております。

これは9市町村が合同で行っているということ、それから小中高それぞれの学校の生徒を対象にし、今後の社会人向けの創業セミナーにもつながるという意味で、時系列的にも広がりのある創業支援の取組であるという2つの切り口があります。これほど大規模な創業支援はないと確認しておりますので、日本最大級の創業支援の中核に米子市が位置していること、また地方創生の観点からも小学生に起業家教育を行うことはとても意義深いことだと思います。

このセミナーは実際のビジネスゲームで、会社を興して事業計画をつくり、資金調達の苦労を体験しながら、商品製造、販売、決算を行うわけですが、実はそれぞれの過程に失敗する仕掛けが仕込まれています。わざと失敗をさせ、それをチームで乗り越えていくという非常に実践的な社会につながるようなすばらしい取組だと思います。

これは起業家育成だけでなく後継者育成にもつながりますし、実際に会社勤めをされている方にもビジネスリーダーになれる勉強の機会だと思いますので、改めて私からもご紹介させていただきました。

（古賀座長）

私も先日広島であったイノベーションフォーラムに参加してアメリカの動向などを聞いてきましたが、やはり失敗の体験はとても大事であると。失敗した人が立ち直れるまちであるシリコンバレーに対して、日本は徹底的に叩いて立ち直れなくなるという社会性です。傷が浅いうちに失敗をして、その後いかに成功させるか、それが起業の鍵であるという話もありましたので、ぜひ大学生にも受けさせてやりたいと思います。

（大塚経済部長）

チャレンジセミナーの話については、成果や門戸を広げていきたいということなど伺

っております。いま座長さんが云われた大学生というだけでなく、行政は失敗が嫌われる世界ですので、そういった観点から脱出する意味でも経済部の職員の参加も促して、高校生などといっしょに勉強させていただければと思います。

（中西委員）

講師はどんな方ですか。

（前田委員）

（株）セルフウィングというのは早稲田大学発のベンチャー企業で、起業家教育プログラムを作成して全国展開している会社です。私どもが行っている高校生ビジネスプラングランプリの最終審査員も務めておられますし、子どもの教育に非常に熱心な方で、その業界では知名度の高い方、信頼できる方です。

（古賀座長）

鳥取大学もいまイノベーション創造コースという大学院のコースを立ち上げていまして、起業家精神を学ぶような教育ですが、そういったところにもぜひ取り入れさせていただければと思いました。

③鳥取県西部総合事務所 関委員

※欠席のため説明なし

④日本政策金融公庫米子支店 前田委員

日本政策金融公庫の地方創生に関する取組6点を説明させていただきます。1つ目は市の総合戦略のKPIにも入っておりますマル経融資の利子補給の拡大ということで、米子商工会議所、米子日吉津商工会、県西部商工会産業支援センターと連携してPRに努め、利子補給の推進を図っております。

2つ目は創業セミナーへの講師参加、金融支援ということで、米子商工会議所、県西部商工会産業支援センターが主催される創業セミナーに講師参加し、制度説明や希望される方には金融支援を実施しております。

3つ目は新たに付け加えられた項目に関連するとして記載しておりますが、起業家育成に向けた取組として、先ほど但馬副座長が説明された小・中・高校生向け創業セミナーへの協力、それから4つ目として私どもが行っている高校生ビジネスプランコンテストへの応募推進を実施しております。昨年度は米子松陰高校が応募されてベスト20に入られ、今年度も米子市内の3つの高校からプランの応募が実現されています。

5つ目は高校への出前授業ということで、米子市と共催し、鳥取県、鳥取県信用保証協会、米子商工会議所、県西部商工会産業支援センター、山陰合同銀行、鳥取銀行、米子信用金庫の後援を受け、米子高校1年生向けの出前授業を実施しております。

これは1年生を対象に融資稟議書の書き方についてのアクティブラーニング、また米子市の暮らしやすさ、稼ぐ力についての講義を行っております。年明けには2年生向けにビジネスアイデアの発想法などをテーマに行う予定ですが、米子高校は3年生にな

ると実習で商店街振興策を策定されることになっております。1年生にはビジネスプランの審査方法、2年生にはアイデアの発想法を教え、3年生には実際に商店街の振興策を実施していただくということで、米子高校においては非常に厚みのある社会人教育が行えるのではないかと考えております。

最後に6つ目として、米子市のキャッチフレーズ PR ということで、市のほうで「米子がい〜な！暮らしやすさ日本一」のロゴを作成されましたので、名刺と公用車、講演会資料に表示して PR させていただいております。各種講演会では米子市の地方創生をテーマにこのロゴマークを入れて資料を配り、米子市の地方創生の取組がいかに深みを持っているか詳しく説明させていただいております。

（古賀座長）

ありがとうございました。非常に多数の取組をしておられ、ぜひ進めていただきたいと思っております。

4つ目のビジネスプランコンテストですが、これは高校生がプレゼン形式でビジネスプランを紹介するといったものでしょうか。

（前田委員）

最終的にはそうなりますが、最初に全国からプラン書を募って選考を行い、最終プレゼンに進んだところは東大の講堂を借りて行うことになっております。

ほかの地域から出た提案ですが、若者向けシェアハウスをつかって都会から人を呼び込み、長期インターンシップに結びつけるといったプランも出ておまして、そういったものはこちらの振興策にも参考になるのではないかと思います。

（古賀座長）

そういった優れたプランは、是非米子市の取組にも反映していただければと思います。前田委員の紹介事例について市のほうからはご発言等ございますか。

（永瀬地方創生推進課長）

米子市のキャッチフレーズ PR では、日本政策金融公庫さんをはじめ、商工会議所さんにも公用車に表示していただくなどご協力いただいております。これは一般の民間企業にも広がっておりますし、市のほうでも先日公用車 100 台ほどに「米子がい〜な！」のロゴを貼り付けて PR に努めているところで、市民の方からの問い合わせもいくつかいただいているところでございます。

今後も策を考えていきたいと思っておりますので、引き続きご協力いただければと思います。

⑤米子信用金庫 岡村委員

まち・ひと・しごとという大きなテーマのなかで、我々金融機関に求められていることは、しごとづくりが一番かなと感じております。まずは企業の生産性を上げて、雇用の継続や確保、所得水準が上がっていくような流れに持っていき、結果人口減少に歯止めをかけるといったことが、金融機関に求められていることではないかと思っております。

資料に基づいて一部ご説明させていただきます。まず P3 について、起業・創業支援として日本政策公庫と業務提携を行った創業支援、また空き店舗が多くなってきていることもありまして、平成 19 年から境港支店、本町支店に商店街商業相談窓口を設けて、起業・創業のお手伝いを続けております。

次に P6 に載せております事例は、信用金庫の横のつながりを活用し、各地でビジネスフェアを開催しております。資料にある 3 つのフェアをご紹介しますが、まず 1 つ目として、山陰 6 つの信用金庫の共同による「山陰しんきんビジネスフェア」を開催し、昨年は出雲市で実施いたしました。ちなみに今年は米子市にて昨日開催したところでございます。各信用金庫の取引先に出展いただき、その数が大体 100 になります。業界の上部団体として信金中央金庫がございまして、そこを使って都会地の大手のバイヤーを呼んだり、鳥取県、島根県のバイヤーなどを呼んだりして商談を行っております。昨日の開催ではバイヤーが約 35 社程度、300 商談ほどが行われましたが、フリーバイヤーも 100 社ほど参加しておりますので、正確な商談数が計り知れないものがありますが、概ね 1000 近い商談があったのではないかと思います。

それから「信金発！地域発見フェア」というものも実施しており、昨年は東京ドームにて全国の信用金庫のお客様 600 社程度を集め、ビジネスフェアを開催いたしました。

次に P7 ですが、これは鳥取県にご協力をいただき、6 次産業化の出口として、昨年初の試みとして皆生の温泉旅館 15 社とマッチングフェアを開催いたしました。

P8 にあるまちづくり支援について、信金業界は大体各信用金庫で年金旅行というものを企画しておりますが、鳥取県西部地震を受けて集客が落ちた時に、米子信用金庫と観光関係の方にご協力いただいて観光温泉宣伝隊を結成し、毎年 1 回各地の信用金庫へ皆生温泉の PR 活動を行っております。徐々に結果も出ており、2 年ほど前は埼玉県の信用金庫の旅行団から 2,500 人程度が皆生温泉に訪れておりますし、今週も山形県の信用金庫のお客様が泊まりにこられるようです。観光温泉宣伝隊も来週皆生から出発して関西方面に営業をかけに行く予定としております。

P9 ではひとつづくり支援ということで、先ほども森田委員から話がありましたように、昨年从高専さんの生徒を受け入れてインターンシップを開催し、まだ地元就職という結果は出ていませんが、いずれ地元就職につながればと取組を実施しております。

それから資料には載せておりませんが、大山開山 1300 年に合わせて、外向けに出していくディスクロージャー誌やカレンダーにいろいろな角度からの大山を使用することを計画しておりまして、微力ながら前パブリッシュのお手伝いができればと考えている次第です。

（古賀座長）

ありがとうございました。ビジネスフェアなど米子市内外の交流については、間違いなく米子市のためになる効果が出てくると思いますので、引き続き進めていただきたいと思います。

またインターンシップの取組については素晴らしいものだと思いますし、やはりこち

らに来る人に対する何らかの制度が必要だと思えます。総合戦略の改訂にあった関西学院大学からのインターンシップの受入にもご協力いただけるかと思えますので、ぜひ検討いただければと思えます。

これらの取組について市のほうからご発言等ございますか。

（大塚経済部長）

先ほどご紹介にありました信金さんのキャラバンについて、埼玉信金の例もありましたが、近年1,000名を超えるような団体に来ていただいております。

広域観光が非常に盛んになった関係もあり、昔は皆生温泉の一泊でしたが、現在は出雲や松江玉造と皆生に一泊ずつして、中海・宍道湖・大山圏域を回る効果の高い誘客のシステムができております。あわせて中海・宍道湖・大山圏域市長会においても団体向けにアメニティをつくって信金さんに提供するような取組を行っておりますので、圏域のリーダー的な取組として今年も引き続きよろしくお願いたします。

（古賀委員）

以上ですべての取組について説明が終わりましたが、最後に中西委員より1点ご紹介がございますので、引き続きご説明お願いたします。

（中西委員）

明日明後日と米子コンベンションセンター、米子市文化ホールにおいて「農と食のフェスタ in 西部」を開催いたします。このイベントは、新日本海新聞社、米子市観光協会、鳥取県農林局のご協力をいただき、今まであったそれぞれのイベントを合同で開催するもので、今年で3年目になります。米子には安心・安全な農産物があるということイベントで情報発信していきたいと考えています。

（古賀座長）

ありがとうございました。

本日の会議は以上となりますが、今後も引き続き皆様のご協力を得ながら本会を進めてまいりたいと思えますので、引き続きご協力よろしくお願いたします。本日はありがとうございました。

4. その他

5. 閉会